



古道を訪ねて⑨

西国街道

百楽荘・桜井地区

牧落から西へ向かい、百楽荘地区や桜井地区を歩いていくと、今まで通り過ぎてきた地区とはまちなみが一変します。その理由は、小野原から牧落までの地区は、江戸時代以前から続く歴史を持った昔からの村であるのに対して、百楽荘・桜井地区は、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）が開通した明治43年以降に新しく誕生したまちだからです。そのため、街道沿いには古い道標や、史跡、寺社や明治時代以前の古い建物を目にする事ができません。しかし、新しいまちといっても、100年近い歴史があります。何も見ないで通り過ぎるのは、歩いていても退屈ですので、近代の歴史を学習しながら進んで行きましょう。

牧落地区から百楽荘地区に入ると、右手に閑静な住宅街があります。その一角に「百楽荘」と刻まれた石の標柱が建てられています。この標柱には「昭和14年」の年号や「弥生通」という道の名称、方角なども刻ま

ています。時代は新しいですが、これも「道標」に違いありませんので、将来は百楽荘地区で最も古い史跡になるのかも知れません。

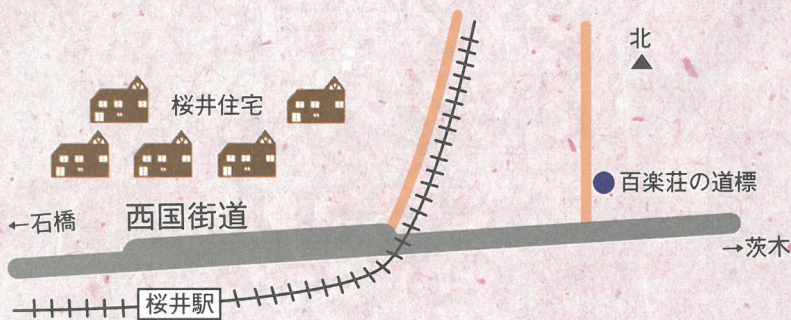


さらに西に進み阪急電車の踏切を越え、桜井地区に入ると道幅が急に広くなります。この広い道は約450m先の桜井駅の前まで続き、その先で再び細くなりますが、これには理由があります。電車が開通した明治43年当初、線路が街道に隣接して敷かれていたのですが、後に南側に線路を移転したため、旧線路跡が道路となり、元からあった街道と一体化したため道が広



くなったのです。

広くなった道の右手には、明治末期に住宅開発された「桜井住宅」があります。近年、建て替えられた家屋もありますが、整然と区画された道路と、一部の建物から、明治・大正のロマンを感じとることも可能です。



※史料を探しています。西国街道に沿って線路が敷かれていたときの写真や情報をお持ちのかたは、ぜひ郷土資料館（☎2235、FAX 249694）へご連絡ください。